

# 旭川歯科医師会便り

Vol.63



事務局／旭川市金星町1丁目1-52 道北口腔保健センター内  
☎(0166)22-2361

<http://www.ahmic21.ne.jp/kyokushi>

## ●●● 京都市の全小学校179校で、むし歯予防のために ●●●

### 週1回1分間の「フッ化物溶液による洗口法」を実施

昨年の統計では、日本人の平均寿命は、女性86歳、男性79歳です。63年前の終戦の頃に比べ、男女ともに寿命が30年間伸び、日本は平和のうちに人生を謳歌できるようになっています。この天から賜った後半の30年間を生きるのに重要なのが歯と口の健康であり、歯の寿命が平均寿命と平行して延びるにはむし歯と歯周病予防が欠かせません。

#### ●子ども達にとって良いことをすみやかに実行していく為には、時にはトップダウンも必要

本年3月31日の全国調査で、全国6433の幼稚園・小中学校などの集団の場で普及しているむし歯予防手段として「フッ化物溶液による洗口法」があります。週1回1分間という手軽さと費用の安さ、確実な予防効果が普及の理由です。特に京都市では、今春から179校の全小学校で実施しています。これには、京都府歯科医師会・平塚会長の情熱と門川大作・京都市長（前京都府教育長）のむし歯予防にかける英断がありました。

去る5月11日に京都市で行われたむし歯予防公開シンポジウムで京都市長は「平成5年よりフッ化物洗口を取り上げたが、むし歯予防効果は出ているのに一向に実施校が増えない。そこで、平成17年から3年かけて市内全小学校での実施を計画し、今日に至った。子ども達にとって良いことは可及的すみやかに実行していく事。議論ばかりしてはだめだ。ボトムアップも必要だが、ある時はトップダウンも必要。」と報告しました。名言です。

#### ●健康長寿も平和であればこそ——戦争犠牲者を旭川の人口で比較

さて、8月といえば第二次世界大戦を振り返る報道が多い、旭川市の人口36万人に当てはめると戦争の悲惨さが分かります。まず驚くことは、大戦での日本人の戦死者数が300万人（旭川市の人口の約8倍）であり、116万人（旭川市の人口の3倍）の遺骨が未だ戦地から帰って来ていません。本人はもとより、遺族の無念はいかばかりかと推察いたします。

また、1945年6月23日に沖縄戦は終結しました。当時の沖縄県の人口は37万人であり、12万人（旭川市民の3分の1）の県民が戦死をしました。さらに、1945年8月6日、当時人口31万人の広島市に原爆が投下され、21万人（旭川市民の3分の2）が壮絶に死にました。

それにもまして、朝鮮、中国、東南アジアにおいて、この戦争の犠牲者が2,000万人（旭川市民の56倍）以上であったことを考えると戦争の悲惨さと愚かさ身にしみます。

日本の世界的な長寿社会は、戦後、平和な時代が続き、公衆衛生学などの医学や歯学や栄養学が発達し、恵まれた豊かな生活が続いた結果でしょう。大切にしたいものです。